

# 隨泉寺寺報

平成27年（2015年） 11月号 第543号

TEL.082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

## 後期門信徒講座

講師 若院 自修

講題 『浄土真宗の教え』

### ■ 法要つとめる心持ち

私は「法要はどんな気持ちでおつとめしたらいいのか」ということを、お話しすることにしています。一つは「故人を偲ぶこと」です。法要にお参りしている人たちは故人と縁の深い人たちばかりですから、これは当然でしょう。皆さんが故人の思い出話をしていました。そして、自分の暮らしを故人にご報告されるのがよいと思います。もう一つは「ご勝縁（しょうえん）」です。法要は、日常忙しい生活をしている人も、仏縁を結ぶことのできる優（すぐ）れたチャンスだということです。つまり、ご法要は亡き人を偲ぶとともに、仏縁を結ぶ大切な行事であるということです。

### 11月の法座予定

- 11月 2日……………本部役員会
- 11月 8日……………掃除 鴨の巣
- 11月 15日朝席午前10時より……………役員研修会 おとき
- 11月 15日昼席午後1時より……………後期門信徒講座 映画『わが母の記』
- 12月 2日午後4時より……………門信徒会本部役員会 忘年会

☆浄土真宗本願寺派前門主 大谷光真著「あけぼのすぎ」

—浄土真宗一口法話— 11月

「私のあたまにつのがあった つきあたって折れてわかった」

(榎本栄一)

仏教にはさまざまな教えがありますが、その中で、親鸞聖人のみ教えの特色は、職業を持ち、家庭を持ち、普通の社会生活をする者が、阿弥陀如来さまに救われて、往生成仏の道を歩むことにあります。

私達は日常生活で、いろいろの出来事にぶつかり、喜んだり、悲しんだり、笑ったり、腹を立てたりします。その一つひとつが阿弥陀如来さまのお慈悲を味わい、自らの至らなさに気付かせていただくご縁であります。人間、何かするから事が起こります。しかし、事が起こるのは生きている証拠です。何もしなければ生きている感動はありません。深い煩惱があるからこそ、救われる喜びが大きいのです。



『罪障功德の体となる こほりとみづのごとくにて

こほりおほきにみづおほし さはりおほきに徳おほし』と親鸞聖人は詠われました。

どのような私も阿弥陀如来さまのお徳を身にいただいているのですから、お念仏申して、自信を持って生き抜きましょう。

### ☆隨泉寺の新しい責任役員と門徒総代が決まりました。

隨泉寺代表役員 住職 鎌田哲成

隨泉寺責任役員 坊守 鎌田淳子 門信徒代表 松井邦雄

門徒総代 門前賢四郎 桔梗孝行 鍋本光信 松井邦雄 原文子

新しく隨泉寺の護持をしていただく役員がきまりました。大役ですが、よろしくお願ひ致します。

### ☆門信徒会役員研修会

11月15日朝席は門信徒会の役員研修会です。今回は若院が『御文章』の「聖人一流章」についてお話を予定しています。蓮如上人がお書きになられた『御文章』の中でも一番有名な、また一番よく拝読されるものです。楽しみにお参り下さい。

## 「すみません」「ありがとう」 「ごくろうさま」を大切に

癌手術で、生まれてはじめて入院している間のことでした。毎日毎日、便所に行くのにも、押して行かなければならない、点滴棒と一緒に暮らしは、やり切れないものでした。これが、生きていくということなのかなと、自問しながらの毎日でした。

そんなある晩、終わった点滴を外しに来てくれたかわいい看護師さんの、「ご苦労さまでした。お疲れさまでした」の、心のこもったことばは、今も忘れられません。薬局でもらうものだけが薬だと思っていた私でしたが、心身ともに甦る薬を、私は、そのかわいい看護師さんから貰った思いがしました。



考えてみると、点滴が、私にとって、決して快適なものではないことが事実ではあっても、それは、私が私のためにやってもらっているものです。私の方から「ご厄介をおかけします」と、お礼を言わなければならないはずのものです。それを、若いかわいい看護師さんが、心からねぎらってくれるのですから、全く感激しました。心身を甦えらせる高貴薬をもらった思いがしました。

馴れっこになってしまっている家族の間でも、心して、「ありがとう」「すみません」「ご苦労さま」「お疲れさま」を大切にしなければ……と、その看護師さんから教えられた気がしました。

## ☆家族を守ってくれた夫に「ありがとう」

寡黙ながら 深い愛情を内に持つ夫でした。誠実で一途な姿は娘二人の生きる指標となっていました。私たち家族は夫に守られている安心感の中で過ごしてこられたと改めて感じています。後年の夫は二歳半の孫を目に入れても痛くないほど可愛がっておりました。

病がわかって三ヵ月 夫は懸命に闘病し家族を不安にさせぬよう弱音ひとつ口にしなかったものです。勤め先の皆さまに千羽鶴や励ましの色紙を頂いた時には外での仕事ぶりや人柄がわかりたいへんうれしく思いました。

夫 伸昭は平成二十七年九月十三日六十四年の生涯を閉じました。娘たちをはじめ皆の協力で家で夫を看取れたことに別れの悲しみを慰めています。最後まで強い父親であろうとした夫にならって私たちは歩いていくと約束しねぎらいと感謝の気持ちを込めて見送ります。

田中 伸昭 釋浄伸 平成 27 年 9 月 13 日往生 6 4 才 平原西 田中 典子

## ☆後期門信徒講座 映画『わが母の記』

【わが母の記】は文化勲章受章者の日本を代表する小説家、井上靖が 68 歳の時に出版した自伝的な小説を元に作られた小説がベースとなって作られた映画です。



この映画は家族が年老いたとき、自分になにができるのかを考えさせてくれます。

伊上洪作は、小説家として成功し、3人の娘と妻と不自由のない暮らしをしている。伊上は子供のころ、両親と妹たちが台湾に渡ったときに、1人だけ曾祖父の愛人に預けられ育ち、「母親に捨てられた」ということが心の痛みとして残っていた。父が亡くなり、年老いた母の世話は、伊豆に住む長女夫婦が看ることになる。そして時々東京の伊上の家に来てもらっていた。いつの日からか、母の八重は同じことを繰り返し聞くようになっていた……。

「母に捨てられた」と、子供心に傷ついていた。今、その母・八重は老いて、記憶がとぎれとぎれになり、目の前の息子がわからないときがある。しかし、「息子じゃない」者の前だから話せる真実の母の言葉があった。

ある朝、おぬいに息子を奪われたという母親・八重の言葉に感情を抑えられなくなった伊上は、初めて母と対決しようと「息子さんを郷里に置き去りにしたんですよね」と問いつめる。しかし、八重の口からこぼれたのは、伊上が想像もしなかったある「想い」だった。



わが母の記  
前期の文章・井上靖の自伝的小説を、豪華キャストで語り継ぐ親子の絆の物語

伊上家の家族全員が、記憶が途切れ老いていく八重を敬意と愛をもって支える姿に、家族なら当たり前のはずなのに、感動してしまうのはなぜだろう。伊上の3人の娘がテーブルを囲んでトランプ占いをしている間にも、祖母の八重は何度も同じ事を言うのだが、姉妹は八重の話を楽しそうに聞いている。

そんなさりげない家族の団らんがとても素敵な映画。特に宮崎あおい演じる三女の琴子は自立心が強い現代的な女の子で、父親の伊上には反抗的だが八重の世話をいちばんがんばっている。

物語には琴子の恋も描かれ、そのアプローチも琴子らしくてかっこいい！

☆ 御礼

永代経懇志 金 拾万円 七竹にしき殿 故七竹則男様 特別永代経志として  
永代経懇志 金 五万円 西川 邦子殿 故西川 元様 特別永代経志として  
永代経懇志 金 拾万円 古堀 恭子殿 故古堀岩男様 特別永代経志として  
永代経懇志 金 貳百万円 観心院釋正護 中本健一殿 遺言にて

☆ 御礼

門信徒会へ 金 一封 西川 邦子殿 故西川 元様 香典返しとして  
門信徒会へ 金 一封 下垣チエコ殿 故下垣良一様 香典返しとして